

津島市タウンミーティング（神守中学校地域協働本部）会議録

日程 令和5年7月8日（土）

午後1時～2時40分

会場 神守中学校ちいきの広場

1 意見交換（要旨）

テーマ「2大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長より説明し、参加者と意見交換を行った。

（1）学童保育施設の分割や新設について

意見

日比市長になってから、3つの学童保育施設を新設していただき、良かったと思っている。市議会での市長の答弁を見た。学童保育について、保育料を下げたら、児童数は増えると思っている。津島市は、今後施設の分割や新設を考えているのか。

市長

現在のNPO法人が指定管理者になってから、私は指定管理者継続に係る決裁文書について2回印鑑を押した。指定管理者の評価結果はA評価であった。A評価であったため、継続しても良いと思った。今年の1月に、市長への手紙があり、それを見て思わずびっくりした。本日お配りしている資料にもあるとおり、指定管理委託料は、平成25年度は約3,200万円であるが、令和4年度は約1億円である。皆さんは、津島市が指定管理委託料に1億円支払っていることを知らないことが、この市長への手紙で分かった。私自身、当然知っているものだと思っていた。令和2年度において、児童1人当たりに対する委託料は、愛知県54市町村のうち2番目に高い。神守子どもの家が完成した時に、この資料をお配りした。県内平均約15万円で、津島市は約2倍の委託料を支払っている。市長への手紙が多く投函されたことに、私は大変驚いた。議会での私の答弁を読み上げる。3つある。

1つ目は「学童保育の料金が近隣と比較して高額であり、何故、このように料金の格差が起こるのか。あま市・弥富市は5,000円、稲沢市は4,000円、愛西市は6,000円。一般的なパート従業員の家庭では、料金が高額の為、預けることをやめ、やむを得ず小学校進学時に勤務時間を減らし、収入がかなりダウンするケースが多い。月額14,000円の学童保育はパート収入に対して大きすぎる。」この方が投書してきた金額は14,000円。おやつ代も込みで記載されている。

2つ目は「夫婦共稼ぎで多忙のため、学童を利用するのに土日でイベントがあり、家族の時間も潰れます。働く親のための学童、親への負担が大き過ぎます。時代に合わせ、そのようなことも無くして行ってほしいです。切実です。」

3つ目は「学童保育の費用が異常に高いうえに、保護者が主体で集まりが多く、使いづらいと聞きました。一番上の子が再来年度1年生。正直、津島での子育てに限界を感じています。しっかりと子育て世代を応援し、支援している近隣の市と比べて、津島市の子育て支援のレベルは底辺だと思います。こんなことをお伝えしても変わらないと思いますが、市外へ引っ越したいと思うほど支援の差があるので、津島市に住んでいる事実日々後悔しています。自宅を売り払って隣の愛西市に引っ越したいと思うほどの支援差。どうにかありませんか。」

私は、起案文書に印鑑を押した時はこの事実を知らなかった。このような市長への手紙は、市民の心の叫びだと受け止めた。このため、1者指定の非公募ではなく、競争原理の働く公募方式とし、広く事業者を募る。もちろん、現在の事業者を排除するものではない。担当課と共有したところ。

市職員

所管課は異なるが、放課後子ども教室は、コロナ禍で日数や定員数を制限していた。その影響により、学童に人が流れてきたこともあり、児童数は増えているものと思われる。この5月に、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、子育て支援課が所管課へ放課後子ども教室の制限を元に戻してもらえないかと要請した。このことにより、学童の児童数が緩和されるかもしれない。

また、日比市長になってから、新西こどもの家、新北こどもの家、神守こどもの家を新設した。支援単位を2つに分けて、対応できればと考えている。

意見

学童の利用希望者が増えている。私自身、以前に学童の事務局を担っていた時は約350人であったが、現在は450人ぐらいいる。当時の担当課は、今後児童数が減少するから、学童の利用者も減るだろうと話していた。現状学童の利用者は増加傾向にあり、今後保育料が下がれば学童の利用希望者はもっと増えていくであろう。利用の割合は、津島市が20%、近隣の市町村が24%。今後利用が増えるのであれば、分割などを検討していただければと思う。現在の指定管理者から変わった場合、万が一定員を設定されたら、本当に困ってしまう。定員設定については、従来のようにしてもらえれば、学校運営も安定していくと思う。

市長

学童については高いので、最初から申し込むことができない人がたくさんいる。定員という話以前に、そういう人たちの受け皿にならないと、最初のところで足切りになってしまう。

私が市長になる前に、夏休みや春休みだけでも預かってもらえるところはないかという話を、ある団地から聞いた。仕事の選択肢が増えるとのことであった。私が市長になってから、学童に夏休みだけでも預け入れができないか要望したが、結局願いは叶わなかった。他市は、夏休み単独での受け入れがある、保育料は倍近いが。最初からできないというお話であったため、「子どもの居場所づくり事業」を始めた。市内5

か所で、夏休みと春休み期間中の子どもたちの居場所を確保した。検証しながらやっていく必要がある。最初から足切りの人がいるではまずいと思う。私が市長になる時は、各学校に学童は1つであった。東は、空き教室があるため、2つに分割した。西、北、神守は分割が可能なように、広くスペースがとってある。今後は、分割も視野に入れながら、できるだけ対応していきたい。ただ、これだけ市長への手紙の投函があったため、そこにお答えしないのはまずいと考えた。苦渋の決断であった。

(2) 子どもの預かり保育について

意見

津島市の子育て支援が充実してきているのは実感しているが、子育てしていく中でまだまだ足りない部分もあると思っている。子どもが小さいと、例えば上の子が病気になって病院へ連れていくことになった場合、下の子を預ける場所が少なく感じる。親が住んでいれば預けることができるが。今ある施設を活用して、一時的に使用できる場所があればよいと思うが、市の考えをお聞きしたい。

市長

津島市はすでに、神島田こども園で一時お預かりができるが、利用したことはあるのか。

意見

兄弟で、1人が小学生で、もう1人が幼稚園児では動き方が変わってくる。一時的な預け先があると、お母さんたちも働きやすいし、子育てもしやすい。

市長

ファミリー・サポート・センターはご存じか。活用されないのか。

意見

よそのお宅に預けることに不安を感じる。子育てに関する知識も、昔と今では異なる。今だとアレルギーを持った子もいるため、アレルギーについて本当に理解しているのかどうか不安。知識や体制が整っているところに預けたいという気持ちがある。私自身が困っているわけでないが、そのような話はよく聞く。

市職員

ファミリー・サポート・センターについて、受入側の会員も研修を受けている。実際にアレルギーを持った子どもさんを受け入れる場合には、事前に話をいただければ対応できる。また、ファミリー・サポート・センターとは別で、一時預かり事業という制度もあるため、一度子育て支援課にお問い合わせください。ちなみに、一時預かり事業とは、冠婚葬祭などで園に預けることができないお子さんを、1日お預かりする制度。

意見

30分や1時間でも利用できるのか。

市職員

ファミリー・サポート・センターは、時間を決めて利用することができる。また、一時預かり事業についても1人あたりの料金は発生するが、短時間の利用もできる。

(3) 市のPRについて

意見

市長のお話を聞いて、津島市は色々な支援をやっていることを実感した。市民の皆さんは、このことをどれだけ理解しているのか。今後、さらに少子高齢化が進んでいくが、いかに新しい方を津島市に入れるか。他市町村の人に知っていただくためのアピールが行われていない感じがする。せつかくこういう取り組みを進めているのであれば、今の時代に合った宣伝・PRを行えば、津島市の人口増につながるのではないか。

市長

受け手側が無関心であるため、間違った情報が流れてしまい、受け手側は本当だと思ってしまう。私のSNSを見てとまでは言わないが、できれば広報紙ぐらいは見てほしい。

意見

広報紙は、市内の人だけ。よそから来てもらうのであれば、よそにアピールしないといけない。SNSでの発信やYou tubeで動画を流すなど。今は、比較的安く広告宣伝を入れることができる。もっともっと発信した方がよいと思う。日本三大川まつりの1つである尾張津島天王祭を知らない人も多い。全然アピールが足りない。市の方からメディア関係にアピールする活動も行った方がよい。せつかく歴史のあるまちなので。津島に興味がある人はいる。津島神社に行きたいと思っている人もたくさんいる。もっとアピールすれば、子育てがしやすいまちということで人が集まり、人口が増えていくと思う。

市長

私が市長に就任してから、4つの課を作った。シティプロモーション課、子育て支援課、危機管理課、総務デジタル課。広報紙で伝わるのは、大きな間違いであった。1年前から、私はSNSで毎日発信している。フォロワーも少しずつ増えてきた。動画配信も行っている。

今年度には、LINEのセグメント配信も行う予定。市がどれだけ発信しても、受け手側が興味なければ拒否してしまう。それぞれの世代に合った情報をセグメント配信できるよう、構築を進めているところ。

また、今年度からは副業人材を4人活用し、動画の配信などPRを進めている。私自身も非常に素晴らしいと思っている。動画を見ていただくと価値が分かると思う。これから様々な形で、動画を配信していく。動画なら、15秒もつ。私が、まちづくりや子育て支援を先頭に立って行っている。

当市では、津島市まちなか定住促進補助金として最大100万円の補助を行っている。

また、神守エリアと唐臼エリア計 68 万平方メートルで、用途地域の見直し、及び容積率と建ぺい率をアップした。今まで 100 坪の土地で、2 階建て 50 坪しか建物が建てられなかったが、現在は 200 坪まで建物が建てられるエリアを増やした。また、これまで建物が建てられなかった地域にも建物が建てられるようにした。6 年間かかった。受け皿は用意している。不動産業界にもアピールしている。

今後「子育て支援トータルプラン」が広がれば、動きが出てくると思う。3 年はかかるかもしれない。ちなみに、この「子育て支援トータルプラン」は、市長マニフェストには入っていない。財務体質が安定してきたため、自信を持ってやれると思い、「子育て支援トータルプラン」を打ち出した。近隣市町村でも、「最近津島市は変わったね」と言われた。市長に就任してから、この約 10 年間で徹底的な行財政改革を行った。子育て日本一、そしてまちづくり。天王川公園を第 1 弾として、今後も続いていく。お見せできる状態になれば、今後津島市のイメージは変わる。今はイメージが悪い。天王川公園の整備に 7 年かかった。まちづくりには時間軸が必要である。

名古屋西流通センターが 16 億 5 千万円で売却できた。そのうち 3 分の 1 の 5 億円が津島市分で、市の税収となった。本当にすごい話。5 年かかった。戦略が必要だと感じた。

ボーダレスな時代を生き残るための「領事館交流プロジェクト」、デジタルの時代を生きるための日本一の「プログラミング教育」。教育を受けるなら津島市。これが教育のシナリオ。ぜひ共有していただきたい。津島高校も中高一貫校として、今後バカロレア教育が公立の学校で受けることができる。3 年で変わってきたのが分かると思う。

市職員

当市では、中向けと外向けの発信を行っている。現在、津島市の LINE は防災に特化しており、この 9 月にリニューアルを予定している。LINE に登録してもらう時に、例えば子育てや観光など興味があることにチェックを入れていただき、ユーザーのニーズに合った情報を配信する仕組み（セグメント配信）とする。防災については、チェックに関係なく情報が一斉に配信される。様々な情報が配信されると嫌になると思うので、必要な情報だけを受け取っていただく。

外向き発信として、津島市でもインスタグラムや You tube を行っている。ただ子育てについては、インスタグラムで紹介してもなかなか映えない。そのため、ショート動画により、簡潔に分かりやすく発信している。その時にハッシュタグを使って、外の方に繋がっていくよう工夫している。そのため、インスタグラムや You tube については、外の方に多く閲覧していただいている。また、津島 PR 応援団というリポスト専用のインスタグラムも開設している。投稿者が投稿した際に、「#津島 PR 応援団」と入れることで、当市の方で投稿された内容を PR させていただく。神野大地選手にも、津島市の広報大使に就任していただき、市の PR 発信にご協力いただいている。

教育長

津島の教育の中で、皆さんの力を借りたいのは学校運営協議会（コミュニティ・ス

クール)。学校と地域が一体となって、学校づくりを進めていく。皆さんそのものが発信の母体である。学校運営協議会については、他の自治体よりはるかに津島市は進んでいる。他の自治体は、形だけで動いていない。PTAとともに、学校を支えていく両輪。これから皆さんは、一緒に学校づくりやまちづくりを進めていく上でのパートナーとして、私たちは認識している。本日は、ありがとうございました。

(4) ADHDの就学前健診と特別支援学級について

意見

ADHDの就学前健診を行ってほしい。保護者や先生の中で理解不足な方も多い。ADHDの子の特性に合わせたケアの仕方を学校側には知ってほしいし、小中高継続的に支援ができれば、ADHDの子が普通学級にいられるかもしれない。

意見

蛭間小学校は、特別支援学級が充実していると言われる。蛭間小学校は、私の中ではアベレージとなっている。蛭間小学校以外の小学校、中学校の支援学級のあり方について、情報がない。蛭間小学校レベルの満足いくレベルまで到達してほしい。そのために、就学前健診など早期な対応が必要である。おちこぼれるのではなく、取り残されない教育をぜひ行ってほしい。私自身、次年度もPTAで関わっていくため、引き続き特別支援学級の充実や情報の提供をお願いしたい。

また、私自身主任児童委員として、平成20年度から赤ちゃんが生まれた家庭を訪問する中で、ファミリー・サポート・センターや一時お預かり事業のことをお母さんに伝えてきているが、現状あまり伝わっていない現実を知った。これからファミリー・サポート・センターや一時お預かり事業のことを徹底して伝えていけるよう、努力していきたい。

教育長

特別支援学級のことに関心を持っていただき、感謝申し上げます。本当にありがたいと思う。特別支援に関わらず、教育支援が必要な子たちは、実は就学前の相談が大事になってくる。そのために、女性の指導主事(主幹)が、今年から始まったSSW(スクールソーシャルワーカー)の先生たちと一緒に走り回っている。特別支援学級については、本当に頑張っているつもり。本日の皆さんの声を指導主事などに伝え、特別支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーと一緒に、就学前相談を充実させていく。津島市は進んでいる。ぜひ、信頼してほしい。

意見

就学前3歳時からのADHD健診をお願いしたい。

(5) 防犯教室の開催について

意見

市や学校は、防災教室は開催するが、防犯教室を開催しているのを見たことがない。

豆ボラができた時には、先生対象に防犯教室を開催していたと思うが。子どもたちは急に不審者が教室に入ってきた時に、どう対処するのか。不特定多数の人が刺される事件も多い。防災教室に力を入れるのと合わせて、防犯教室も各学校が警察署と協力して行っていくべきである。急に不審者が入ってきたら、なかなか動けない。バリケードを作る、避難するなど。日頃から防犯教室も行わないと、いざ事件が発生したらパニックになって、大変なことになるかもしれない。お願いします。

教育長

大阪府の池田小学校では、校内での死傷事件が発生してから、年に何回か訓練を行っている。当市も防犯に係るプログラムを考えていく必要があるが、各学校ではやることがたくさんあるため、各学校が選択しながらやっていくことを理解してほしい。命を守ることなので、1年に1回は実施できるよう、各学校には話をする。

以上。